

# 自己紹介

日本の弁護士 → 米国弁護士

米国弁護士 → 民間人校長

# 国際社会で勝負できる若者の育成

- 危機感の差  
(前提の違い→教育界におけるカルチャーショック)
- 東大・京大に入ればよい  
(国際社会で通用しない学生の量産)
- 日本のリーダーが相手にされなくなる  
(人が資源の日本の沈没)
- 学校でも社会でも国内での競争のみを意識  
(外から見れば丸呑みしやすい)

世界基準で通用させるために

日本の長所を残し、  
短所を改善

# 日本の長所

## 1. 受験地獄

「豊富な知識」「高い事務処理能力」「勤勉さ」

## 2. 他人への気配り

先手を打てるはず

# 日本の改善点

1. 英語力
2. アウトプット
3. 日本国民であることの誇り・自信

# 英語力

- アジアの「英語ダメ」バリアの崩壊  
(近隣諸国の急速な対応→好き、嫌いの問題ではなくなった)
- 10年を無駄にしないために／これ以上の失敗はない
- 車の両輪  
(アカデミックとカジュアル)
- TOEFL「英語超人」  
(TOEIC、国際比較、入試対応、大学入試)
- 小学校では「音」

# アウトプット

考え・技術に自信を  
意見の違いを恐れる文化

沈黙は金

二重の基準

「変人」のすすめ



「論理」(世界の共通語)

と

「想像力」(既成概念の破壊)

# 日本人としての誇りと自信

1. 国際交流の機会の増加  
(海外留学・視察、留学生の受入増加、  
修学旅行)
2. 歴史認識  
(すべての情報をテーブルに)